



相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
7月号
上市町立相ノ木小学校

生き物の姿を見つめてー認め、敬い、思いやる心ー



「おーい、みんな。鯉の赤ちゃんおるよ」

1年生が池の中を覗きこみ、興奮気味に大声を出しました。池には、ずっと前から住人の大きな鯉4匹と昨年度から参加した30cmぐらいの若い鯉5、6匹がいます。1年生の大声を聞き、「30cmもあるのに、鯉の赤ちゃんとはおおげさだな」と思いながら、わたしは池の傍まで行きました。「校長先生、鯉の赤ちゃん泳いどる」と1年生。指さす方を見ると、確かに10cmにも満たない小っちな魚が数匹泳いでいるのです。鯉なのかもわかりませんし、どうやって池に入ったのかもわかりませんが、1年生の「鯉の赤ちゃん」というかわいらしい表現に納得し、微笑ましい思いを抱きました。そして、他の鯉と比べてとても小さく、泳ぎも俊敏な「鯉の赤ちゃん」を見つける好奇心の強さに感心させられました。

また、しばらく前から児童玄関の軒下にツバメが巣を作っていました。子供たちに糞がかかってはいけないと、作りかけを一度は壊してもらったのですが、それでも親ツバメたちは、あきらめることなく同じ場所に巣を作り直しました。糞は気になりましたが、巣は玄関の端にあり、親ツバメに根負けした形で、巣を黙認することにしました。やがて卵も孵化し、巣のへりから雛2羽の黄色いくちばしだけが時々見えるようになりました。玄関にいた子供たちにわたしがそのことを話すと、子供たちは巣をじっと見つめ、かわいらしくちばしが見える度に「あ、見えた」と歓声を上げていました。

生物が大きく成長する初夏、子供たちは様々な生き物と出会い、その実態に一喜一憂しています。低学年は、虫取り網を片手に畑や庭を右往左往しています。3年生は、理科専科の先生が用意した少し大きくなってきたバッタやカマキリ等の姿や様子をじっくり観察し、絵に表していました。また、5年生は、田の水にいる微生物を顕微鏡で見て、ミジンコを拡大した様に驚き、少し変わった形や動きをしたものを見つけ、「新種発見」と喜んでいました。4年生も、ハムスターと金魚を飼う予定で、今後世話をしながら命を見つめていくことでしょう。

元来、子供たちは生き物が好きです。種類によって好き嫌いはあるでしょうが、生き物を見つけると、興味がそそられ、見入ってしまいます。それは、自分とは全く違う生態に関心をもつからであり、それぞれの生物の命の営みに不思議さや神秘、尊さを感じるからだと思います。存外、大人もそうです。コロナウイルスの影響からか、最近「動物のおもしろ映像」を流すテレビ番組が増えています。何となく見てしまい、何だかほっとする自分がいます。

でも何より、生き物たちの日々の営みが、まっすぐで、嘘がないことに一番ひきつけられる理由があるのではないのでしょうか。大昔のギリシャの司教ヨハネス・クリソストムスは、次のように言っています。

蜜蜂が他の動物より尊敬されるのは、勤勉であるからではない。

他の者のために働くからである。

弱肉強食という厳しい、過酷な運命が待ち受けていても、生き物たちは、自分の本能、生に対して一生懸命で、打算がありません。いじめ、人種差別、虐待等、人の心の弱さから多くの課題が生まれる昨今。子供たちには、いろいろな生物に興味をもち、命の営みというものを見つめることで、他者を認め、敬い、思いやる心をしっかりと育んでほしいと思います。

「きれいにする」「整える」ことは、心を磨くこと

「校長先生、公園で〇〇小学校の子たちがごみ捨てていこうとしたから、注意したんだよ。何回も言ったんだけど、逃げてった」「そのごみ拾おうと思ったけど、多すぎてできなかった」

朝登校するなり、玄関前で6年生の子がわたしにそう話してくれました。「ありがとう、注意してくれて。またそんな人いたら、注意してあげてね」と、わたしはその行為や気持ちを褒め、感謝の意を伝えました。他の学校の子に注意するなんてなかなかできません。自分たちが使っている場所をきれいにしようとする気持ちや公德心、よいと思うことに迷わない善悪の判断や行動力等、6年生の確かな成長を感じ取り、うれしく思いました。

そんな相ノ木っ子たちの掃除の様子と言うと、コロナの影響もあり、縦割り班ではなく、学年ごとに清掃をしています。6年生の手伝いもない1年生はきちんとやれるのか心配していたのですが、まったくもって問題ありません。どの学年もとても一生懸命に、同級生同士協力して学校をきれいにしています。何より感心するのが、どの子も分担された箇所や役割に専念し、黙々と取り組んでいる姿です。清掃が始まる時刻前に場所に来たり、何度も何度も雑巾がけをがんばったりしています。

「学校(人前)だと掃除しているようだけど、家では一つも片付けしない」と嘆かれる保護者の声を時々聞きますが、それが当たり前ではないでしょうか。人の目があるからこそがんばれるのが日本人の特徴、よさであり、自分しか使わない、人の目を気にしない場所をピカピカにきれいにする方が難しいのかもしれない。だから、「社会の通念があるからごみを出さない」「みんなが使う所をしっかりときれいにする」といった、日本人の「いいカッコしい」をきちんと受け継いでいくべきだと思います。人が見ている前でも平気でごみを散らかしているようでは困りますものね。そして、きれいにすることで心がすっきりしたり、誰も気付かないような所も進んできれいにしたりできる人間になっていけばよいのでしょう。

イエローハットの創業者で、NPO法人「日本を美しくする会」の相談役でもある鍵山秀三郎氏は、次のように言っています。

足元のごみひとつ拾えぬほどの人間に、何ができますでしょうか。

また、こうも言っています。

人間の心は、そう簡単に磨けるものではありません。

ましてや、心を取り出して磨くことなどということはできません。

心を磨くには、とりあえず、目の前に見えるものを磨き、きれいにすることです。

とくに、人のいやがるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。

人は、いつも見えているものに心も似てきます。



掃除、整理整頓、片付け等は、自分にとって大きな成長を促してくれる、とても大事なことです。相ノ木っこのみんな、環境を整えることの美しさ、きれいにすることの清々しさを味わい、自分の心をどんどん磨いていってね。

行事予定(7月中旬～9月中旬)

7月16日(木)	健康・運動能力向上支援事業(1・2年)	8月7日(金)	第1学期終業式
	1年心臓検診	8日(土)	夏休み開始
17日(金)	耳鼻科検診(1～3年)	13日(木)	学校閉庁日(～8/17)
21日(火)	4年校外学習(グリーンセンター)	24日(月)	第2学期始業式
28日(火)	耳鼻科検診(4～6年)	25日(火)	身体・視力測定(3年・4年)
30日(木)	内科検診(1～3年)	26日(水)	身体・視力測定(1年・2年)
8月3日(月)	内科検診(4～6年)	27日(木)	身体・視力測定(5年・6年)
4日(火)	健康・運動能力向上支援事業(1・2年)	28日(金)	健康・運動能力向上支援事業(1・2年)
6日(木)	地区児童会	9月16日(水)	秋季大運動会

